

バングラデシュにおける環境教育活動に関心がある、意見交換したい、インターンを考えている、一緒に協働プロジェクトを実施したい等がございましたら、お気軽にご相談下さい！

✉ hideki\_sato@jeef.or.jp  
☎ 03-5834-2897



**佐藤秀樹 (国際事業部チーフコンサルタント)**  
JICA 青年海外協力隊員 (派遣国: エクアドル、職種: 野菜栽培)、農業・農村開発コンサルティング会社を経て2010年9月から、JEEFの国際事業部に勤務。主に、バングラデシュで環境教育の技能を活用した、住民による持続可能な地域づくりの活動を実施中。

# アジア 開発途上地域の 地域デザイン

国際コラムパート3  
第2回

自然の恵みの発掘  
商品・ブランド化による  
地域づくり!

今回は、適正な自然資源管理の下、住  
民の恵みを活用した商品開発・ブラン

民の主体的な参加と関係者との連携による  
ド化を目指した地域づくりについて考えます。

## 多

くの開発途上国の農村部は、第一次産業（農業、林業、畜産業や漁業）が主であり、自然を基盤とした住民の営みが行われています。農村地域では、収入の低い第一次産業だけで生計を立てることは難しく、また、雇用情勢が不安定な中で代替の労働を確保することは困難です。このような状況の中、人々の生計向上を図る取組みの一つとして、その地特有の自然の恵みを発掘し、それを活用した商品を開発、さらにブランド化を目指した地域づくりが考えられます。

を行う必要があります。

例えば、JEEFは地域と協働して、インドネシアでのヤシ砂糖を使った生姜湯や、バングラデシュでの天然はちみつ、マンダローブの実のピクルス、ニッパヤシで編んだ籠等、森の恵みを活用した非木材林産物を開発してきました。住民が市場を意識した製品開発を進めるためには、「地域の組織化」「様々な関係者の巻き込み・連携」「能力開発」を地域が一緒になって進めていくことが重要です。

### 1 組織化による基盤構築

非木材林産物の商品販売を行う際には、ある一定の原料を確保する必要があります。何人かの住民が集まったグループを協同組合等として組織化し、販売に必要な量を確保すること、一緒に行動していくためのルールづくりが重要です。例えば、組織運営の方法、資金の貯蓄・管理方法等の規則を明確化し、そ

## 2

### 関係者との連携構築や 情報交換・学びの場の創出

積極的に地域の産業、例えば、天然はちみつを発展させていきたいという志の高い関係者（政府、企業、仲介業者、大学、NGO、住民等）を巻き込み、連携を図っていく必要があります。地域のリーダー、住民グループやローカルNGO等の現地組織、そしてJEEF等、外部支援者が積極的に情報交換や学びの場づくりを働きかけていくことが求められます。

### 3 商品開発・ブランド化を 図るための能力向上

一般的に、地域住民の多くは自然の恵みの商品化・ブランド化に関する経験が十分に備わっていないことが予想されます。そのため、それらの能力向上を図り、研修やワークショップを定

## ワークシート

### ワークシート

関係者	現地政府 経済産業省 環境林業省	現地企業 食品会社	現地住民	現地 NGO 専門：環境	海外 NGO 専門：国際協力	先進国の市民
取組みや支援の内容	例) はちみつ販売のための規則に関するワークショップ開催	例) はちみつの品質を向上させるためのろ過技能の研修会開催	例) グループの組織化	例) 全体の調整役	例) はちみつの商品開発を図る資機材購入のためのファンドレイジング	例) ファンドレイジングへの協力



文責：佐藤秀樹  
(国際事業部チーフコンサルタント)